

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290800016		
法人名	医療法人 社団一就会		
事業所名	グループホーム湯と里		
所在地	伊豆の国市長岡953-1		
自己評価作成日	平成26年2月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&jigyosyoCd=2290800016-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 モア設備設計事務所		
所在地	静岡市葵区昭府1丁目20-16		
訪問調査日	平成26年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の人格を尊重し、入居者様の生活を第一優先に考え、日々の業務にあたっている。入浴は、温泉を使用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は伊豆長岡温泉の温泉街。背後に竹林をのぞむ閑静なところにある。医療法人の経営で、同一敷地内のリハビリ病院より毎朝病院長が訪れ、利用者の様子を観察して必要があればすぐに診察をうけることができる態勢にある。このほか、緊急時にかぎらず、日常的にも病院や同一法人の医療スタッフやスタッフ・設備などの協力が得られ、利用者や家族にとって安心できる環境にある。また、入浴は天然温泉が引かれ、利用者の希望に応じて入浴したいときに入ることができる。このほか毎年恒例で近くの水族館へ外出する機会を設けたり、毎月のようにご利用者がメニューを選択する外食、出前などの機会を設けている点も評価できる。法人としての理念に基づき話し合っている事業所独自の理念を持ち、医療面以外でもできる限りの工夫をしている様子がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識して、入居者様の心の変化に気付き、どう寄り添うか考え実践していくようにしている。	法人の理念に基づき、事業所独自の理念をグループホームの特性に沿ってスタッフで作成し、スタッフが毎日出入りする事務スペースに掲示。利用者の思いを第一に考え、家族にも理念について説明している。	せっかくの理念なので、ご家族など来訪者が見えたときに目につく位置に掲示されることを希望する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の方々や近隣の施設より情報を聞き、お祭りなどのイベントに参加している。地元出身の看護学生の実習の受け入れなどもある。誕生日会やクリスマス会では、ハーモニカのボランティアに慰問を依頼した。	法人の主催する健康まつりには、中学生のブラスバンドなど地域の人たちが出演したり、訪れたりして参加している。芸妓さんの踊りの参加があるのも温泉地として栄えている地域の特色を反映している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方や一人暮らしの高齢者の方と出会う機会があると、介護について相談を受けたり、気軽に立ち寄って頂けるように話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、職員の退職が重なり運営推進会議の開催が困難だった。	今年度、運営推進会議は開催できなかったが、利用者の家族や知人の来訪時に、気づいた点、意見を伺えるよう心掛けている。	運営推進会議の再開できるよう次年度期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	要介護認定の更新などで、市の窓口に向くなど、必要時には市との連携も視野に入れ、働きかけている。	市担当課を訪れた時に情報交換をするようにしている。またボランティアの紹介などでは市から情報を提供してもらい利用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や非常口の施錠はしていない。徘徊や転倒の危険性がある方は、見守りを強化し付き添うようにしている。職員には、抑制的な発言などしないように教育している。	出入り口を施錠しないのはもちろん、時期が良ければ開け放したり、訪れた人も入りやすい雰囲気となっている。収集癖の有る利用者などへも禁止したり制限するのではなく、見守って、利用者の心を傷つけないよう対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がないように常に職員全員で連携体制を取り、教育し注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方はいます。今後も、必要な方には積極的に活用を支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、不安や疑問点には耳を傾け、いつでも連絡を頂けるように話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会時になど直接意見を伺うようにしたりし、職員全員で解決すべき所は、その都度話し合いをしている。	事業所に入ってすぐのところに設けた意見箱で伺ったり、訪問されたご家族に利用者の現状の報告と事業所の対応を説明し、家族の意見を伺う機会とし、職員会議などで公開して、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話を聞く事も多々あり、その都度話し合いをする事もある。毎月の職員会議でも意見交換をし改善出来る事は受入れている。	月はじめ、夜勤者との交代時間に開催する定例の職員会議の他、日常業務の中で意見が言える環境にするよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経営状況を説明したうえで、職員への経営に関しての意識付けを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	掲示したり呼びかけを行い、研修の参加を促している。研修後は、職員会議で報告をし、知識を共有出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者と交流を持っていないので、出来るように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴し、受止める姿勢で対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談は、真摯に受止め信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、ご本人やご家族の思いや状況を確認し、改善が図られるようにしている。入居までに至らないケースなどは、他のサービスの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来ることへの参加を働きかけ、ご家族と関わる機会も作れるように過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と連絡を密に取り、協力が必要な所は協力して頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族に依頼し、正月の里帰り、お墓参り等への外出がある。出来るだけご本人の希望が実現出来るようにしている。	日常会話などで聞き取った利用者の希望にそって、季節の行事の里帰りのなど機会を捉えて、ご家族の協力で連れてって頂いたり、馴染みの方が集まる場にスタッフがお連れしたり、馴染みの方の訪問を積極的に受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居様同士が良い関係でいられるように、常に配慮している。話題を提供したり、時には仲介役になり、コミュニケーションを図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了された方のご家族が話をしに來られ、その後の様子などを伺い相談を傾聴している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向を、言動・行動・表情から把握するように努めている。困難な場合は、ご本人の安全を考慮して検討し実施している。	手芸などの利用者になられる前からの趣味が継続できるよう、ご家族にご理解を得て縫い針などもお渡ししている。利用者の介護度の中が大きいので会話や表情からご本人の希望意向を把握するよう常に務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料や日常の会話からもこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。時には、ご家族にも伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解し、その日の体調や気分、日々様子観察をし、職員間で情報を共有してケアにつなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を伺い反映させるようにしている。日々の話合いや毎月の会議で話合い介護計画に反映させている。	ケアプランについては、スタッフがグループで作成している。特にリハビリでは、同一法人の病院の理学療法士・作業療法士と情報交換をし、GHの日常生活でできるメニューを作成してもらい、実施するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの気づきや工夫、特に注意すべき点などは業務日誌に記録し情報を共有している。また、それを介護計画に活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や家族の状況に応じ通院などに必要な支援に対して、臨機応変に対応して個々の不安解消を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の新聞や広報などから情報を得て活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、継続して受診出来るように支援している。病状に合った医療受診が出来るように手配している。	日曜以外毎朝敷地内の病院から院長が訪れ健康相談できる他、病院にある診療科を家族の同意を得て主治医にしているケースが多いので受診しやすい。診療科のない場合は家族に通院に付き添って頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェック、体調や表情の変化などに注意し、異常の早期発見に努めている。看護師に相談し医師に繋げることもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人の支援方法に関して病院へ情報提供している。入院中は、様子などをご家族や相談員に確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早急に、ご家族と連絡を取り、話し合いをして希望に沿って支援している。	看取りの必要な場合は隣接する病院で行うことが多いが、GHでと希望のあった場合は、状態をよく把握している隣接病院の院長やGHスタッフと家族と話し合っって対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	落ち着いて対応できるようにマニュアルを備えている。状況に応じて動けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回隣接する病院と一緒に避難訓練をしている。近隣の住民の方々との協力も得ている。	年2回同一敷地内の病院と小規模多機能ホームと合同で避難訓練を行っているほか、地域の防災訓練にも小規模多機能と交代で参加している。また病院職員寮など近隣に暮らす法人のスタッフとも万一の時は協力できる体制をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いから、言葉掛けや対応に失礼がないように気をつけている。	プライバシーや言葉遣いなど利用者への対応で気づいたことがあれば、個人的に注意するのではなく、問題をスタッフ全員で共有し解決するため会議で取り上げ話しあうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思を必ず確認し、答えやすく選びやすい問いかけをするように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせるように心掛けているが、職員の業務内容などで入浴・外出など職員側に合わせて頂く事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院へ行ったり、ご家族の希望で整髪を行ってもらう方もいらっしゃる。ご本人の好みの洋服をご家族が手配して下さる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好みを伺い、手作りのおやつを用意するようにしている。食事の片付けなど出来る方はしている。	隣接する病院で食事は調理されるが、食器はご利用者の使い慣れたものを基本にしている。月に1度食事会を設け外食したり出前をとったり、週一度はお弁当にして目先を変え、メニューを選ぶ機会を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量をチェックしている。栄養やカロリーを考えた献立を考え、個々に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを働きかけている。困難な方には個別に援助している。義歯の方は、夕食後に洗浄、除菌を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁を減らせるようにタイミングを見て、さりげなくお誘いしている。	お手洗いが近いほうが良い方には入所時に、トイレが備えられたお部屋をおすすめしている他、スタッフが把握しているパターンでタイミングを見計らって声掛けで誘導することを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少ない方には、ゼリー等目先を変えて提供している。毎朝の乳製品の提供、歩行運動、お腹のマッサージなども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯などは決めていない。一人ひとりの気持ちを確認したうえで、タイミングなどを考えて入浴して頂いている。	このGHの特色である天然温泉を楽しんでいただくため、利用者それぞれの希望に合わせて入浴できるようにしている。衛生面からは最低週2回は入浴していただくようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日中の活動性に配慮し、午睡し夜間は良眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルやお薬手帳を整理し管理しており、薬の変更や追加等が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や特技を活かして役割を持ってもらい、ゆったりと過ごして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	短時間でも外へ散歩に行けるように支援している。行事予定を立てて月一回程度、全員で外出し外食出来るように支援している。	季節によるが散歩したり日なたポッコをしたり、近くの公園の足湯を楽しみに行ったり、近くのホテルで開催されている展示を観に行ったりして、地域の方とのふれあいも目的に外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の能力に合わせて、買い物等を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙や電話の取次ぎ、話をされている。手紙のやり取りの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように、行事や掲示物で季節感を味わって頂いている。リビングに天窓を設置し明るい光を取り込んでいる。	食事以外の時間は居室で過ごされる方が多いが、リビングは天窓が設けられ明るい。利用者の作品も過度にならない程度に飾られ、全体に落ち着いた雰囲気の内装となっている。テレビがあるリビングはゆったり楽しめるようソファも用意してある。	うかがった時はまだ寒かったこともあるが、花や植物を飾って季節を感じられるような工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子に気軽に腰掛けられるようにしており、テレビを一緒に見たり、話したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具など馴染みの生活用品を持ち込んで頂き、家庭の延長のように過ごされている。	ベッドなどご家族と一緒に準備されたものをレイアウトし各居室を整えている。ご仏壇やご家族の写真が飾られていたり、小物が飾られていたり利用者らしさがある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全にその人らしい生活が送れるように工夫している。また、混乱しないようにしている。		